



令和2年度 【11月号】
上之郷中学校だより

《学校の教育目標》
自ら求め鍛え合う



【特集】
プロから学ぶ

牧場(長野県)での研修から

生き方を学ぶ(2年生)

働くって大変だけど楽しいものなのです。

コロナの影響で、今年度2年生のみなさんは、実際に事業所に入って学ぶ職業体験学習ができません。

そこで、それに代わる活動として、この10月には介護福祉士、葬祭業者の方を学校にお招きしてお話をうかがったり、社会人と

してのマナーについて学んだりしました。

また10月23日には、長野県小県郡長和町にある鷹山ファミリー牧場に行き、動物(命)を扱う仕事をされている方と一緒に様々な体験活動を行うことで、仕事の大変さを学びました。

こうして、いろいろな職場の人たちの思いや生き方に触れながら、働くってとても大変なことなのだけど、仕事の仲間と支え合いながら、働きがいをもって、どの職業の方も生きてみえることを学びました。

(4・5面に関連記事)

【特集】 プロから学ぶ①

やっぱりプロの歌声は、すごすぎる！

びわ湖ホール声楽アンサンブルの方から発声方法を学ぶ

びわ湖ホール声楽アンサンブルからオペラ歌手2名とピアニストをお迎えし、3つの学年それぞれミニコンサートなどの実演を交えて、発声の仕方について授業を行っていただきました。

生徒たちは、初めて至近距離で聴くプロの音量の大きさにびっくり。合唱は人数ではなく、たった2人でも十分に感動を届けられることやごく簡単な曲でも美しいハーモニーとなっていく

を感じ取っていました。

そして、発声の仕方を実際プロと一緒に声を出しながら学び、これから合唱祭に向けて頑張ろうとする決意を固めていました。

この学習活動は、文化庁の「文化芸術による子どもの育成総合事業」として行っており、ワークショップと本公演の2回実施します。また、合唱祭には特別にご講演をいただくことになっています。

お腹を意識して歌ったら、はっきり歌えるようになった

多くの生徒が感じた授業による自分の歌声の変化

アドバイスを受けて、自分は喉から声を出しながら歌っていたことに気づいたので、腹式呼吸をしながら、お腹から声を出すことを意識したいです。今回のプロの人の指導を受けて、お腹を意識して歌ったら、はっきり歌えるようになったので、プロの人のアドバイスをしっかり取り入れて歌えるようにしたいです。

これは、授業が終わった後に3年生の生徒が書いた授業の感想です。ほぼすべての生徒が、プロの歌声を間近で聞き、この生徒のように本物に触れることで、合唱に対する意識を変えるきっかけをつかむことができたようです。

10月28日(水)には、びわ湖ホール声楽アンサンブルの皆様10名による公演として、歌声を鑑賞するとともに、生徒たちと歌手と一緒に歌うことが予定されています。

今、生徒たちはその日を目指し、今回の指導を音楽の普段の練習に取り入れながら、コロナの影響で思うように練習のできていなかった合唱を少しでも高められるよう努力をしています。

そして、12月11日の合唱祭で最高のパフォーマンスが見せられることを願って本格的に取組がスタートしました。



プロ歌手から学んだ授業の様子

プロ直伝 発声の極意

- 其の一 足の裏から根が張るような感じで、地球の中心に向かって根が伸びる その上に立つべし
- 其の二 口は“オ”の形に近く、こめかみから口が開く感じで、口も口も大きく開けて、顔(ひたい)の真ん中から声を出すべし
- 其の三 自分の声をあの山の向こうにいる人に響かせるようにすべし そのために、自分の息で、この部屋全体の空気をかき混ぜるくらいのもつもりで、息をはくこと
- 其の四 息を吐ききったら、いん香りを手や足や体全体に染み渡らせるように、そして、おなかの周りの袋を満タンにするよう息を吸うべし

「あんなふうになりたい」頑張りたいという思いがいっぱい

生徒の感想から

- 今まで声は全く出ていなくて、「声が出ていないよ」など言われていたけれど、アドバイスで声を出せるようになりました。高音を出せて、アルトで一番声を出せるくらい練習したいし、お腹から声を出せるように心がけたいです。
- あまり音程がとれていないところがあったり、動いてしまうこともあったりしました。一つ一つの発音をはっきり言って歌うことができていませんでした。口を縦に開ける

こと、足に根っこをはるイメージをもち、一つ一つの音をはっきりと、大きく歌いたいです。足に根をはるイメージで歌ったら、曲の途中で動かなかったの、続けたいです。

- 高音の部分で顎に変な力が入ってしまい、遠くに声を飛ばすことができていませんでした。また、口から息を吸っていたり、しっかり吸えなかったりして、息が続きませんでした。プロの歌手の人たちのように、体全体をうま

くコントロールして、歌えるようになりたいです。

- きれいに高音が出せなかったり、音程に自信がなく声が出せなかったりしていました。また、自信を持てていなかったの、口の大きさも小さかったです。今日、歌い方を教えてもらった口を縦に開き、息が広い範囲にもれないように歌ったり、練習の時に少しずつ丁寧に高い音を出す練習をしたりしたいです。今日指導してくれた人のようなきれいな声を出したいです。

徐々に変化してきた合唱に向かう姿

フェイスシールド着用し、距離を開けて全校練習を開始



体育館で始まった全校合唱練習

フェイスシールド着用、ソーシャルディスタンス… コロナ対策を十分にした上で合唱練習。

正直に言って、この半年以上の間ほとんど合唱をしたことがない上に、この状態で歌うのはかなり苦しい。息を大きく吸いなさいって言われても、フェイスシールドが邪魔して思いっきり吸えない…。

生徒たちは、それでも一人一人が自分からプロ直伝の方法で精一杯の声を出そうと懸命に努めています。

こんな点で変化が

- 口の大きさが以前とは比べものにならないほど変化し、すごく大きな声を出せる生徒が増加。特に、女子の声が変化
- 先生のアドバイスを聞き、それを素直に受け入れ、自分の姿を変えようとする生徒が増えた
- 合唱に取り組む姿勢が大きく変化。自分たちだけでも、時間があれば練習をしていこうとする姿ができつつある

今年の合唱祭スローガンは、「百歌繚乱」（花が咲き乱れるように歌が飛び交ってほしい）こんな中でも、やり切った思いがもてるよう生徒たちは頑張っています。

こんな合唱祭にしたい… 生徒の願いから

- 小さくか細い声ではなく、大きく迫力のある声で見ている人をびっくりさせたいです。そのために、誰かに頼るのではなく、一人一人が声を出し、気持ちを込めて歌えるようにしたいです。
- 10月28日は、あの時よりも成長した姿を見てもらいたいです。そして、合唱祭当日には、見ていただく人に「すごい」と思われる合唱にしたいです。
- プロ歌手に言われた口を縦に大きく開けるということをメインに頑張る、気持ちのこもった歌を歌うことを目指したいです。
- 周りの人の声の出し方に合わせるのではなく、一人一人が自分から教えてもらった声の出し方ができるようにしたいです。